

2016年9月期 第3四半期決算説明資料

2016年8月10日

ステークホルダーの皆様へ

当社は、平成28年8月10日に第3四半期決算を発表いたしました。昨年8月の東京証券取引所マザーズ市場上場から1年を迎え、これまで**順調な業績**を収めることができましたことは、ひとえに皆様のご支援の賜物と感謝しております。

当社は、**情報サービス事業を営む3つの事業会社を傘下に持つ純粋持株会社**であり、グループとして、ソフトウェア開発事業をコアに事業展開をしております。特に、**参入障壁が高いとされる自動車産業向け組込み系（エンベデッド）ソフトウェア開発に強み**を持っており、中でも**車載分野**において発展を遂げてきたことが特徴です。

当第3四半期は、複数年にわたり研究開発を行ってまいりました**自動車関連通信制御技術分野が開花**しました。具体的には、「**V-Lowマルチメディア放送『i-dio』**」の放送開始、**神戸市「市バスを情報通信基地とする実証実験」**への**実証事業主体**としての参画、**総務省主催「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」**への**構成員**としての参画です。将来的な**成長戦略の一つとなる橋頭堡**が築けたと実感しております。

当社グループはこれからも、確かな「技術力」により「**安心・安全・豊かな社会**」の**実現**に向け、新たなサービス領域へ、協業を含め積極的に挑戦する**企業集団**です。自動車産業、金融業界、ネットワーク・通信関連分野にて培った技術基盤を用い、「**車車間通信（V2X）**」、「**テレマティクス**」、「**自動運転**」、「**デジタルサイネージ**」、「**再生エネルギー**」、「**情報セキュリティ**」、「**フィンテック**」、「**ロボット**」、「**ドローン**」、等をキーワードとするI o T / I o Eソリューション分野においても将来的な貢献を目指してまいりますと存じます。

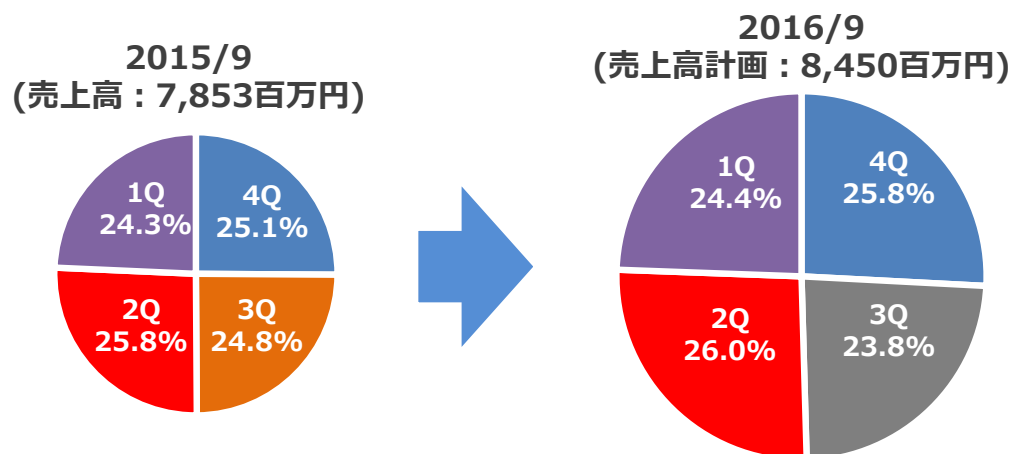
引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

PCIホールディングス株式会社
代表取締役社長



- ☆ 注力するIoT/IoEソリューション事業が事業計画に沿って順調に拡大。
- ☆ 当四半期では、放送と通信の融合を実現する『V-Lowマルチメディア放送「i-dio」』に係るソフトウェア開発売上高を計上。
⇒最新サービスに携わる事で先行者メリットを享受し、デジタルサイネージ等の新分野への参入を通じた事業領域の拡大戦略をこれからも推進。
- ☆ 新卒採用を予定通り順調に実施。経営課題であるIT技術者不足の解消にも積極的に取り組むことで拡大するIT需要を取り込み、企業価値の更なる向上を実現すべく、今後も優秀な人材育成に努める。

1. 良好な事業環境が継続、通期計画に対する進捗率は売上高74.2%、経常利益85.7% ⇒ P4



2. 「安心・安全・豊かな社会」の実現に向けた、事業領域拡大への挑戦

- ・ 『V-Lowマルチメディア放送「i-dio」』事業を通じた企業価値の向上
- ・ 「V2Xユニット」を活用した神戸市「市バスを情報通信基地とする実証実験」への参画
- ・ 総務省主催「非常時のアドホック通信ネットワーク活用に関する研究会」への参画
- ・ 再生可能エネルギーのO&Mサービス、情報セキュリティ分野への継続的取り組み

	ページ		ページ
1. 2016年9月期 第3四半期決算概要	3	 3. 会社概要	22
(1) 2016年9月期 第3四半期決算業績サマリー	4	(1) 会社概要	23
(2) 2016年9月期 第3四半期決算 事業別の売上高・売上総利益実績	5	(2) PCIグループ概要	24
(3) 四半期業績の推移	6	(3) 会社概要 - グループ沿革	25
2. 重点施策の進捗について	7	(4) グループ企業の事業紹介	26
(1) 2016年9月期の重点施策		(5) 3つの事業分野	27
- 昨年度の反省を踏まえた開発体制の強化	8	(6) 会社概要 - 事業モデル	28
(2) 2016年9月期の重点施策 - 新たなビジネス領域への挑戦	9	(7) 当社の株主価値創造プロセス	29
(3-1) V-Lowマルチメディア放送の概要	10	(8) 株主価値創造プロセスを下支えするプロジェクト管理体制	30
(3-2) V-Lowマルチメディア放送の特色	11	 4. 業績概要	31
(3-3) V-Lowマルチメディア放送による新しいサービス	12	(1) 連結損益計算書	32
(3-4) V-Lowマルチメディア放送事業を通じた企業価値の向上	13	(2) 連結貸借対照表	33
(4-1) 総務省研究会「非常時のアドホック通信		(3) 連結キャッシュ・フロー計算書	34
ネットワークの活用に関する研究会」への参画	14	(4) 2015年9月期実績に基づく収益構造と中期見直し ①	35
(4-2) 研究会構成員	15	(5) 2015年9月期実績に基づく収益構造と中期見直し ②	36
(4-3) 非常時におけるアドホックネットワークの構築・活用	16	5. 用語集	37
(5) V2X (Vehicle to X) : 車車間通信	17	(1) エンベデッドシステムとは	38
(6-1) 神戸市バスを情報通信基地とする実証実験	18	(2) 用語集	39
(6-2) 神戸市バスにおける「V2X」ユニットの運用・利用イメージ	19	 マークのコンテンツについて	
(7) 再生可能エネルギー「Power Station」	20	PCIホールディングスの基本情報が記載されています。	
(8) 情報セキュリティ分野「PASERI」	21	PCIホールディングスの会社概要・事業内容を詳しくお知りになりたい方は是非ご覧ください。	

1. 2016年9月期 第3四半期決算概要

2016年9月期 PCIグループ – Motto –

『 上場企業としての自覚を持ち、
お客様、ビジネスパートナー等と共存共栄を図り、
更なる飛躍を目指し、社会から信頼される企業となる 』

(1) 2016年9月期 第3四半期決算業績サマリー



- 売上高** : **6,268百万円** : 当社グループの開発実績を背景に、3事業とも既存・新規案件の引き合い増加が続く。
(前年同期比6.5%増) 2016年9月期第3四半期累計は、**会社計画線で着地。** **(通期計画に対する進捗率は74.2%)**
- 売上総利益** : **1,531百万円** : 高採算のIoT/IoE事業拡大やビジネスソリューション事業の業容拡大等により、
(前年同期比13.9%増) 2016年9月期第3四半期累計の売上高総利益率は24.4%と前期比1.6ポイント上昇。
(通期計画に対する進捗率は80.2%)
- 経常利益** : **496百万円** : 好調な事業環境による売上総利益の増加に加え、**研究開発費(約100百万円)を吸収し**
(前年同期比9.3%増) 利益率を維持。 **(通期計画に対する進捗率は85.7%)**
- 親会社株主に帰属する四半期純利益** : **336百万円** : **法人税等の負担率が予想値を下回り、下期織り込みの連結子会社の事業拡大に伴うオフィス増床**
(前年同期比25.1%増) **関連費用が第4四半期以降にずれ込んだこと等による押し上げ。**
(通期計画に対する進捗率は93.5%)

(百万円)	15年9月期			16年9月期			16年9月期 1-3Q実績
	上期 実績	第3四半期 累計実績	通期 実績	上期 実績	第3四半期 累計実績	通期 計画	対通期計画 進捗率
売上高	3,938	5,885	7,853	4,262	6,268	8,450	74.2%
売上総利益	869	1,344	1,762	1,033	1,531	1,909	80.2%
売上高総利益率	22.1%	22.8%	22.4%	24.3%	24.4%	22.6%	-
営業利益	315	446	547	372	485	580	83.7%
営業利益率	8.0%	7.6%	7.0%	8.7%	7.7%	6.9%	-
経常利益	321	454	544	382	496	580	85.7%
経常利益率	8.2%	7.7%	6.9%	9.0%	7.9%	6.9%	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	184	269	330	262	336	360	93.5%
当期純利益率	4.7%	4.6%	4.2%	6.2%	5.4%	4.3%	-
E P S (円)	67.7	98.5	117.5	78.0	99.9	106.8	-

(2) 2016年9月期 第3四半期決算 事業別の売上高・売上総利益実績

エンベデッドソリューション事業

～新規顧客からの引合いが増加～

- グループのエンジニアリング力を活かした開発実績を背景に、**安定した受注環境が継続**。
- 安全先進技術を取り込む**スマートカー開発**等の自動車案件の好調を背景に、新規顧客からの引合いが増加。
- 得意とする**車載関連**、**重機・建機**関連等の自動車産業向けでは、**車載系ECUモデルベース**の受注や**AUTOSAR**（車載ソフトウェアプラットフォームの仕様名称）の受注が拡大。

ビジネスソリューション事業

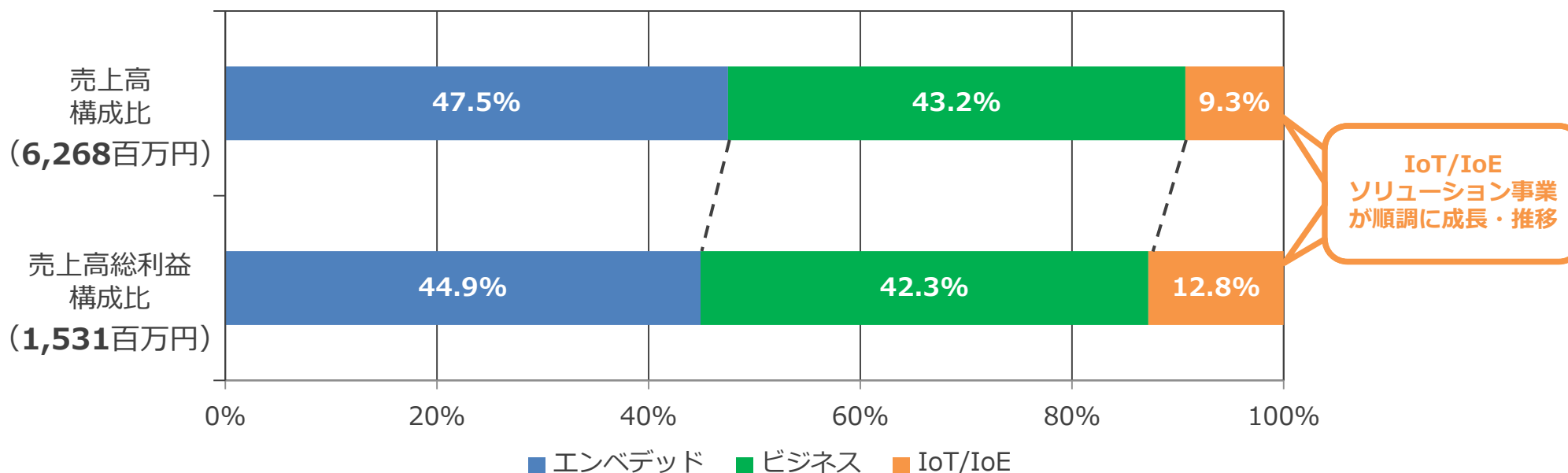
～BP強化で事業規模が拡大～

- 大手SIer（システムの企画、構築、運用サポートを全て請け負う業者のこと）を通じた**金融機関**向け及び流通系案件の受注が堅調に推移。
- SI、システム運用・保守サービス分野では、**基幹系サブシステム開発**案件を多数受注。
- POSシステム関連機器販売は、**インバウンド**需要による地方への免税店舗展開が寄与し好調に推移。

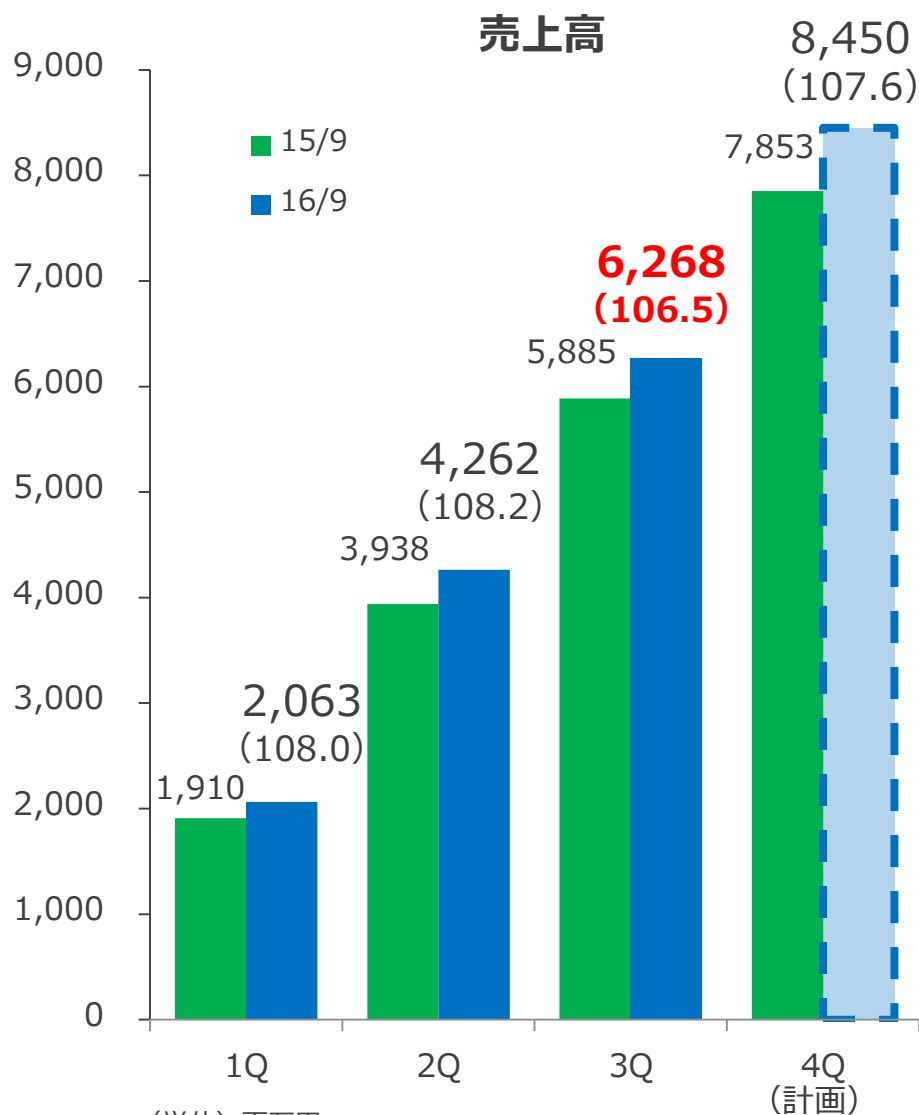
IoT / IoE ソリューション事業

～自動車向けを中心に好調に推移～

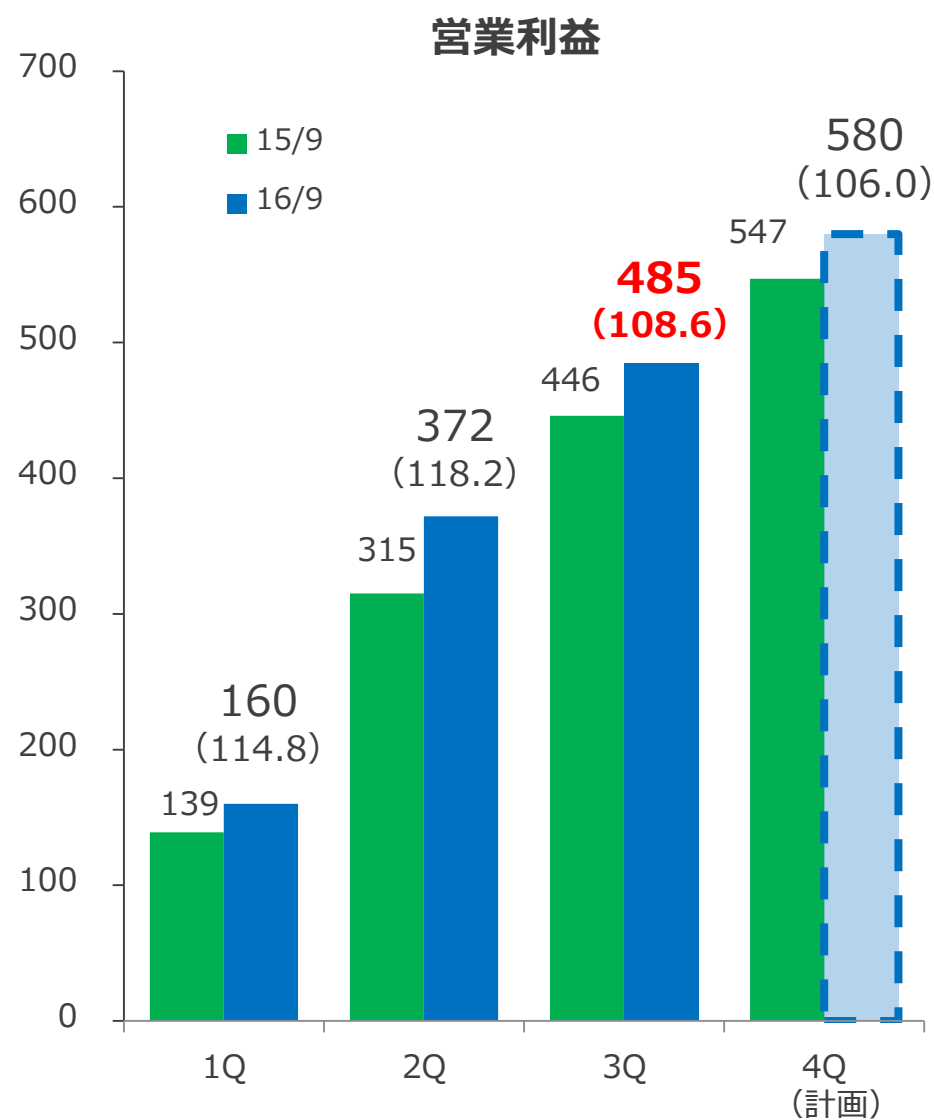
- 「**V-Lowマルチメディア放送『i-dio』**」向けソフトウェア開発が売上高に寄与。
- エネルギー業界向けソリューション等は、統合管理システム「**Power Station**」を導入した太陽光発電所の**3拠点目**が稼働開始。大規模発電所向け統合管理システムも堅調に推移。
- 自動車販売店向けソリューションは、既契約先の**保守業務**及び既存サービスの**機能改修**が堅調に推移。



(3) 四半期業績の推移



(単位) 百万円
 (注1) 2015年9月期第1四半期は参考数値。
 (注2) () は前年同期比%。



(単位) 百万円
 (注1) 2015年9月期第1四半期は参考数値。
 (注2) () は前年同期比%。

2. 重点施策の進捗について

- ・ 開発体制の強化
- ・ 新たなビジネス領域への挑戦

課題

IT技術者不足が常態化

2015年9月期で既存顧客からの依頼に対応できなかった案件数は **約230件 (注)**

(注) 顧客からの引合いがあり、適切な技術者のアサインが可能であれば成約していたであろう案件数

対策1

BPとのリレーション強化
(資本提携を含む)

当社がBPの急拡大を可能としている要因

- PCIプロジェクトの商流が上流にあるため、BPへの発注単価が相対的に高い。
- 経験豊富なメンバーと協業することでプロジェクト管理手法を学ぶ事が出来る。
- 最先端の開発案件に携わることが出来る。
- BPにとって資金回収が早い。
- 教育体制が充実している。

対策2

徹底したプロジェクト管理

当社のプロジェクト管理体制 (P30参照)

- 開発プロジェクトを推進する開発部門に工程管理専門の経験豊富な管理職を配置し不採算プロジェクトを極小化。
- 経験豊富な管理職が、現場のトラブル(進捗の遅れ、開発上のトラブル、メンバーの勤務状況)を正確に把握し素早く対応。
- トラブル発生時には営業部門と開発部門管理職が一体となり対応。すべて現場まかせにしない事で、顧客からの信頼度・満足度が向上。

対策3

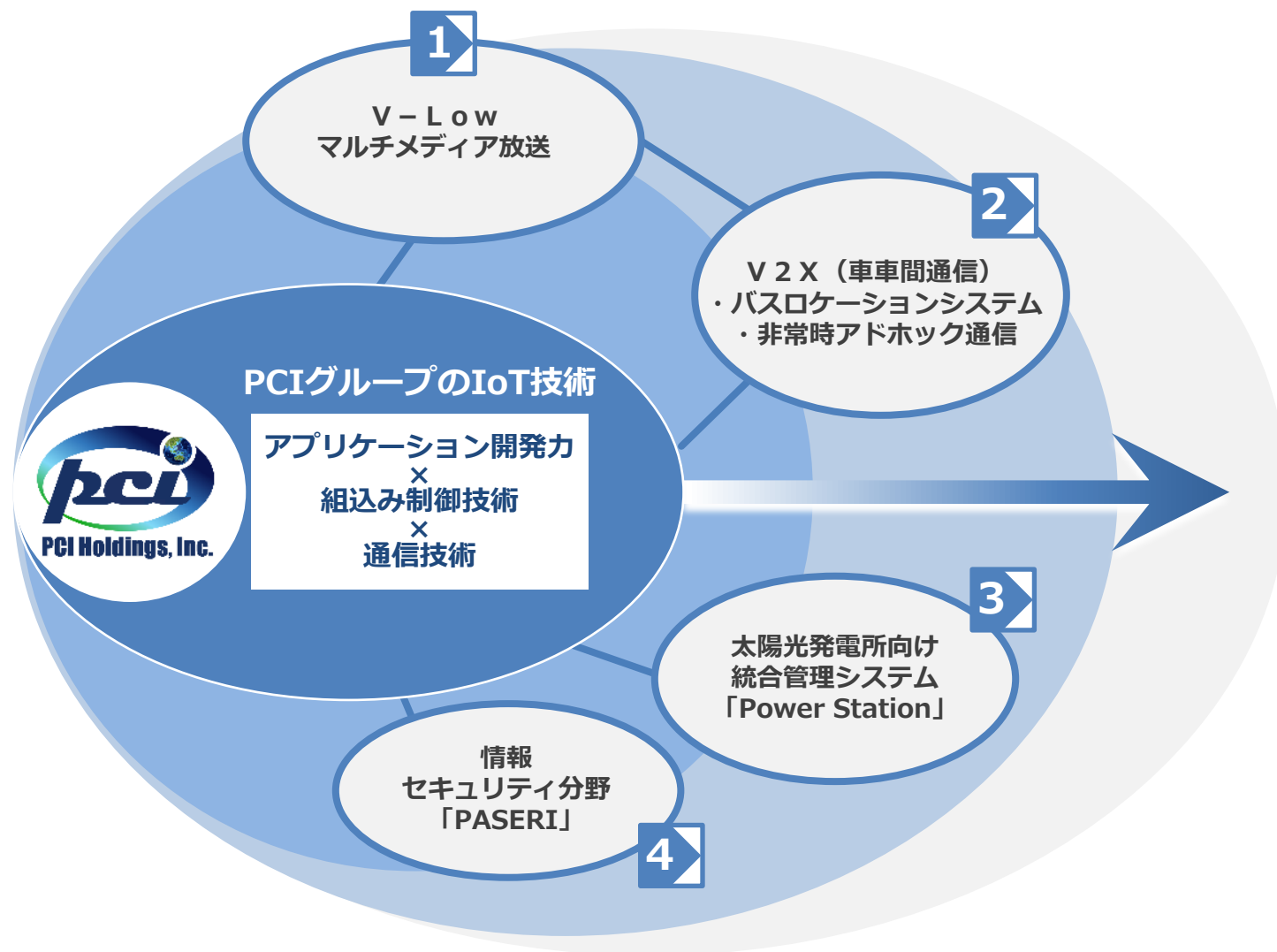
人財戦略事業部の立ち上げ
新卒採用の拡大

人財戦略事業部の狙い

- いわゆる「人事部」から『採用(新卒・中途)』『教育』機能を切り離し、よりシステム開発現場に近い目線で戦略的な人財開発を行う。
- 中途採用も積極的に行うが、有能な人材の需給は逼迫化しているため、当面は新卒採用に注力する。
- 社員教育並びにBP技術者教育にも注力する。
- 採用から継続的な教育までを専門に行う部署の設置により採用人数の拡大、定着率の維持向上、BPとのリレーション強化に取り組む。

(2) 2016年9月期の重点施策 - 新たなビジネス領域への挑戦

各種研究開発、エンベデッドシステム開発の豊富な実績で培ったIoT技術を応用し、新ビジネスサービスを提供する他業種企業と協業しWin-Winの関係を構築。安心・安全・豊かな社会の実現に向け、新たなサービス領域へ積極的に挑戦します。



「安心・安全・
豊かな社会」
の実現

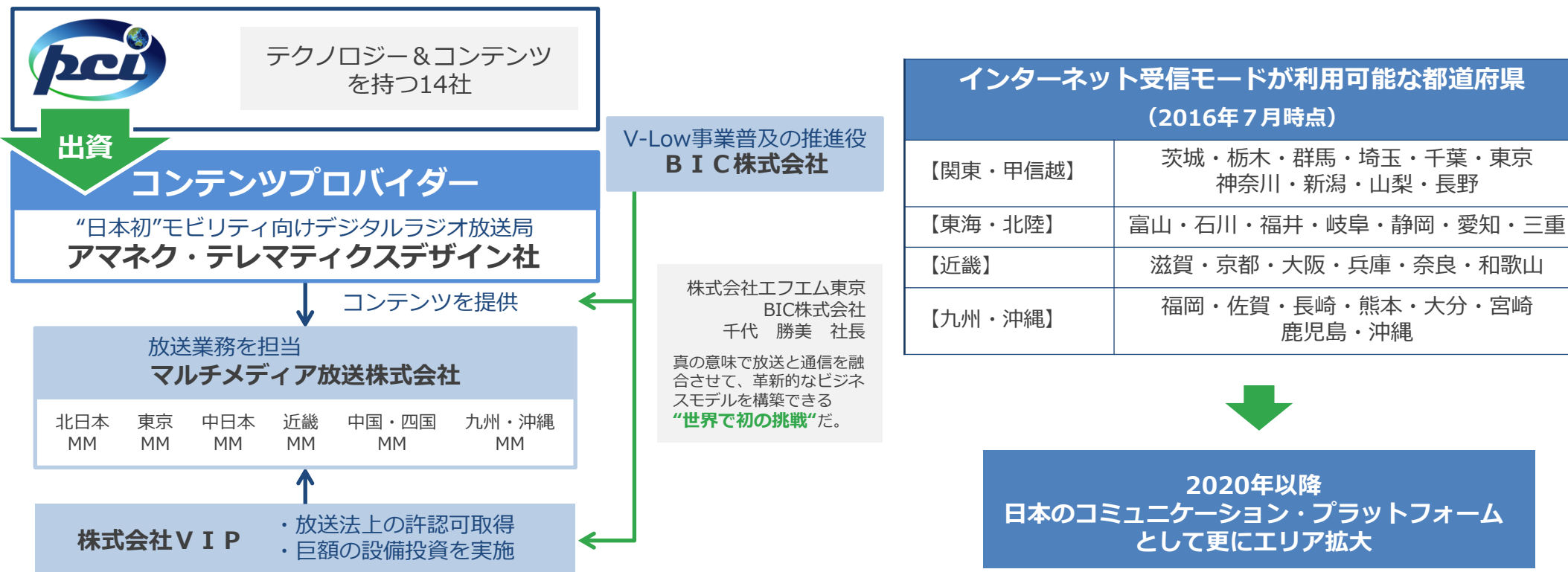
当社グループの
確かな「技術力」
が支援します！

(3-1) V-Lowマルチメディア放送の概要

V-Lowマルチメディア放送は、V-Low帯（地上アナログテレビ終了後に空いたVHF帯の周波数跡地のうち、90MHz～108MHzの帯域を指す）の放送電波と通信回線を使用し、主に移動体端末向けに音声・映像・データ等のコンテンツの配信を行う新しい放送の形態です。

当社の 開発範囲

- ・ 車載器向け共通モジュール
- ・ コミュニケーションツール『A-ya』
- ・ スマートフォン向けアプリ
- ・ 番組配信サーバ
- ・ V-Lowマルチメディア放送コンテンツプロバイダーの『アマネク・テレマティクスデザイン社』へ出資



(出所) エフエム東京HP等より作成

V-Lowマルチメディア放送の特色

- ① 移動しながら情報が入手できるという携帯性・移動性
- ② 輻輳なく不特定多数に対し同時に情報提供可能な一斉同報
- ③ 放送地域を分割し、各エリアでのみ受信できるエリア放送も可能
- ④ 音声・映像・データなど様々な情報を組み合わせて提供

	インターネット	マルチメディア放送
送受信	混雑時等に利用できない可能性有	輻輳（パケ詰まり）なし
配信	プル型配信必要な情報だけを取得	強制プッシュ配信も可能

	従来の放送 テレビ・ラジオ・県域放送	V-Low マルチメディア放送
放送エリア	県域放送	地方ブロック
ハード/ソフト	一致	分離
端末	テレビ受像機 ラジオ受信機	車載器・サイネージ・ 携帯電話（スマホ）
ビジネスモデル（収益源）	広告	多彩なビジネスモデル

（出所）エフエム東京HP等より作成

V-Lowマルチメディア放送による新しいサービス

- ☆ 3月1日 **プレ放送**開始（福岡・東京・大阪）
- ☆ 4月18日 アマネク社が九州地方へ向けた**通行実績情報の提供**を開始
- ☆ 7月1日 **本放送**開始、東海地区でのプレ放送が開始

マルチメディア放送

音楽や音声を含めたあらゆるものを**デジタルファイル化**。ファイルには、**位置情報を付加して**、放送という方式で**一斉同時配信**を行う。

-  音楽
-  気象情報
-  交通情報
-  行楽情報
-  緊急放送
-  買い物情報



カーナビ・カーオーディオ



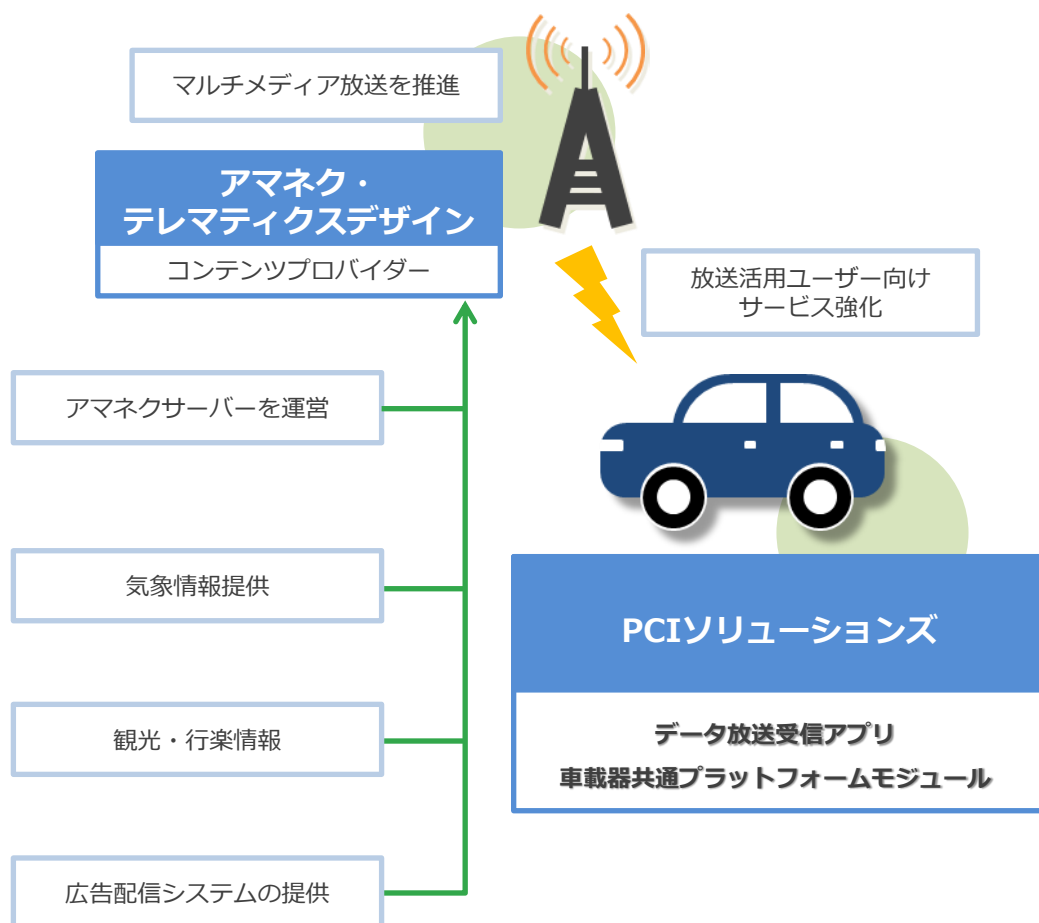
スマホ・タブレット



屋外サイネージ

事業参入の狙い

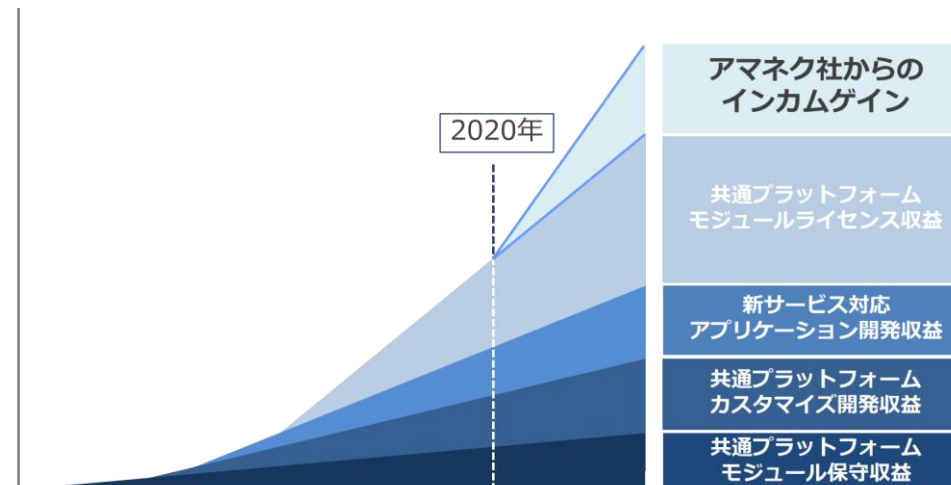
- ・ 車載器メーカーを中心に、デジタル化が進む自動車関連業界との関係強化
- ・ 放送と通信の融合による最新サービス開発に携わる事で先行者メリットを享受
- ・ 放送、デジタルサイネージといった新分野への参入を通じた事業領域の拡大



事業参画企業 (14社)

- PCIソリューションズ (株)** (株) アイ・トランスポートラボ
 (株) エフエム東京 (株) オリエンタルコンサルタンツ
 オリックス (株) キャンバスマップル (株)
 シグノシステムジャパン (株) 住友電気工業 (株)
 (株) ゼンリン 大日本印刷 (株)
 一般財団法人 日本気象協会
 バイテックシステムエンジニアリング (株) (株) シーズラボ
 (株) ゼンリンデータコム

収益予想図



「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」が発足

- ☆ 1月20日 **研究会開催**の報道発表
- ☆ 1月26日から開催され、6月29日に「**中間取りまとめ**」が公表された

総務省は、**大規模災害の発生時等**に、**自動車に搭載された通信システム**やスマートフォンの無線LAN機能等を利用してアドホックに**ネットワークを構築**し、活用する際の技術的課題について検討を行うため、「**非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会**」を開催。

☆ **主な検討事項**

- (1) 災害時に求められる**通信サービスのイメージ・ユースケース**と、**その実現手段**
 - (2) アドホックネットワークにおける**情報伝送・制御機能への要求条件**
 - (3) アドホックネットワーク構築のための**技術的課題の整理と解決の方向性** 等
- ※検討に当たり、無線方式については中立的に取り扱う

「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」が発足

☆研究会構成員

(主査)東京工業大学大学院 理工学研究科 教授 高田 潤一

東京大学 生産技術研究所教授 大口 敬

(国研)情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク研究所
ディペンダブルワイヤレス研究室長 三浦 龍

(株)トヨタIT 開発センター 研究部 シニアリサーチャー 大西 亮吉

本田技研工業(株)四輪事業本部 事業企画統括部
グローバルテレマティクス部 サービス研究開発室 TC/技師 大石 康夫

(株)NTT ドコモ R&D イノベーション本部
サービスイノベーション部 担当課長 堀口 賞一

ソフトバンク(株)プロダクト本部 法人プロダクト企画部
プロダクト企画3課 課長 松本 善徳

(株)KDDI 研究所 執行役員 研究プロモーション部門担当 田中 英明

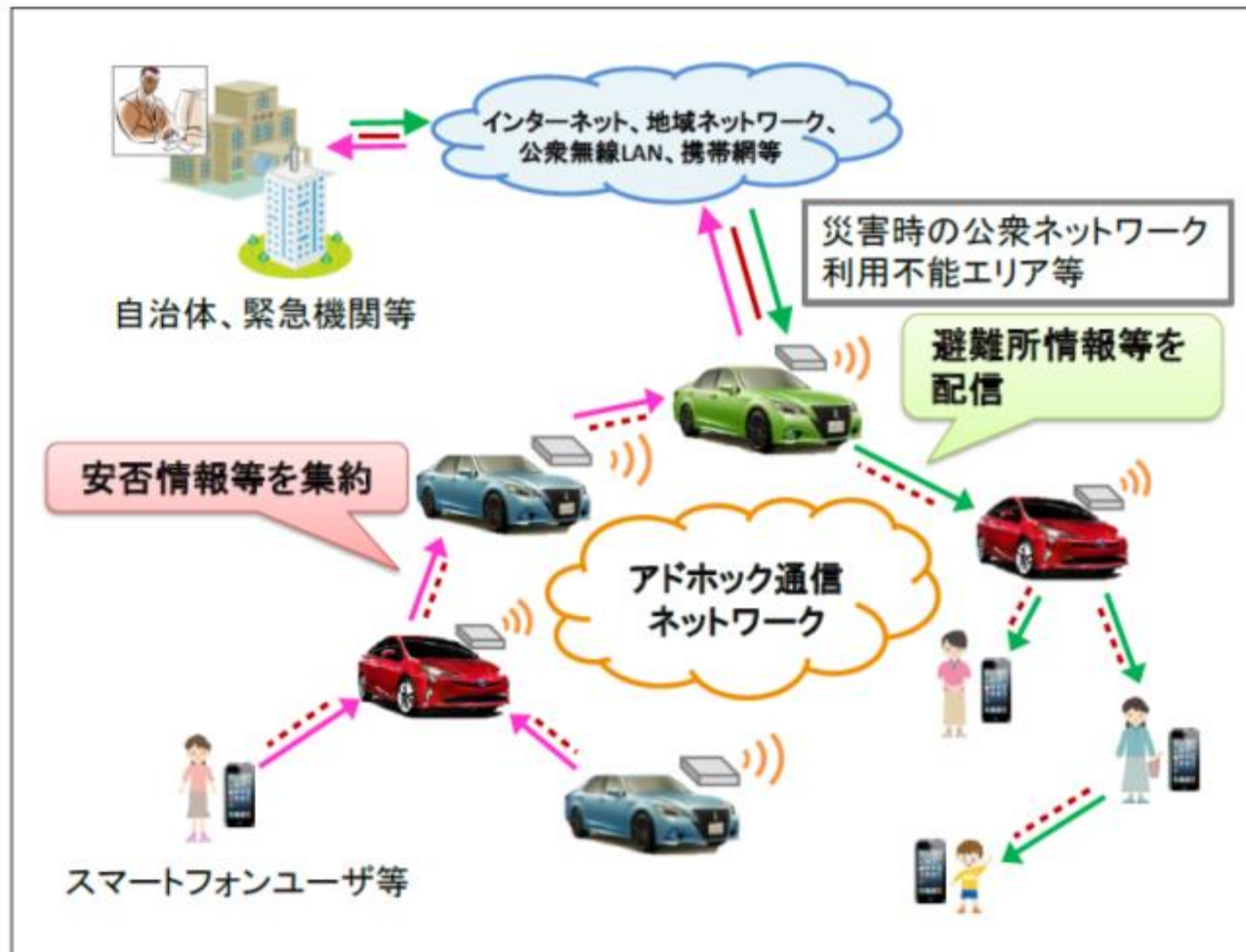
日本電気(株) システムデバイス事業部 技術部長 渡邊 敏博

沖電気工業(株)社会システム事業本部
交通・防災システム事業部 無線技術研究開発部 部長 浜口 雅春

PCI ソリューションズ(株) 執行役員 研究開発事業部 事業部長 清宮 幸夫

(順不同、敬称略)

非常時におけるアドホックネットワークの構築・活用のイメージ



(アドホックネットワークの構築)

災害時、公衆ネットワークが利用できなくなった地域等において、車載通信機器やスマートフォン等によりアドホックに通信ネットワークを構築

(アドホックネットワークの活用)

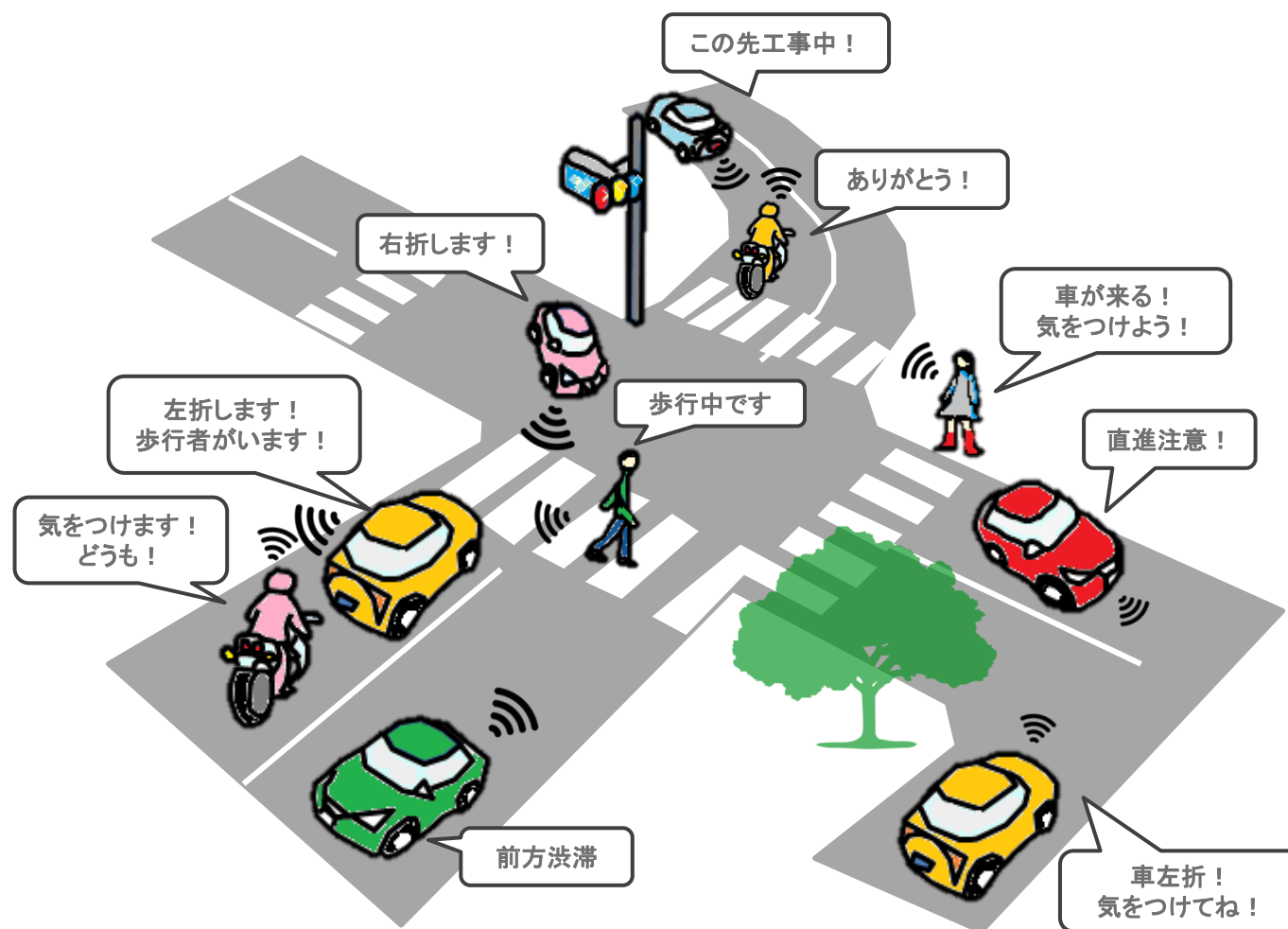
構築したアドホックネットワークを通じて、自治体等からの災害関連情報(災害発生情報、避難情報等)を被災者に配信

構築したアドホックネットワークを通じて、被災者の安否情報等を自治体等に集約

(出所) 総務省HP http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/adhocnw/02kiban05_03000226.html

(5) V2X (Vehicle to X) : 車車間通信

V2Xとは、自動車 (Vehicle) と他の様々な機器やもの (X) とを通信でつなげること。当社はV2Xを実用化する為の**V2Xユニットのソフトウェア開発**と一般社団法人ゲートウェイ・アップ・ジャパン (会員: 35企業・団体 4自治体 2016年3月15日時点) を通じてV2Xを活用した新サービスをお客様へ提案しています。



2016年2月23日 「V2Xユニット」を搭載した「市バスを情報通信基地とする実証実験」が開始

- ☆ 昨年12月22日 バスロケーションシステム**実証実験**について**記者発表**
- ☆ 2月23日 **実証実験開始**（5月末までを予定）
- ☆ 4月18日 **第一段階の結果及び第二段階の実証実験発表**

PCIソリューションズが「**実証事業主体**」として参画

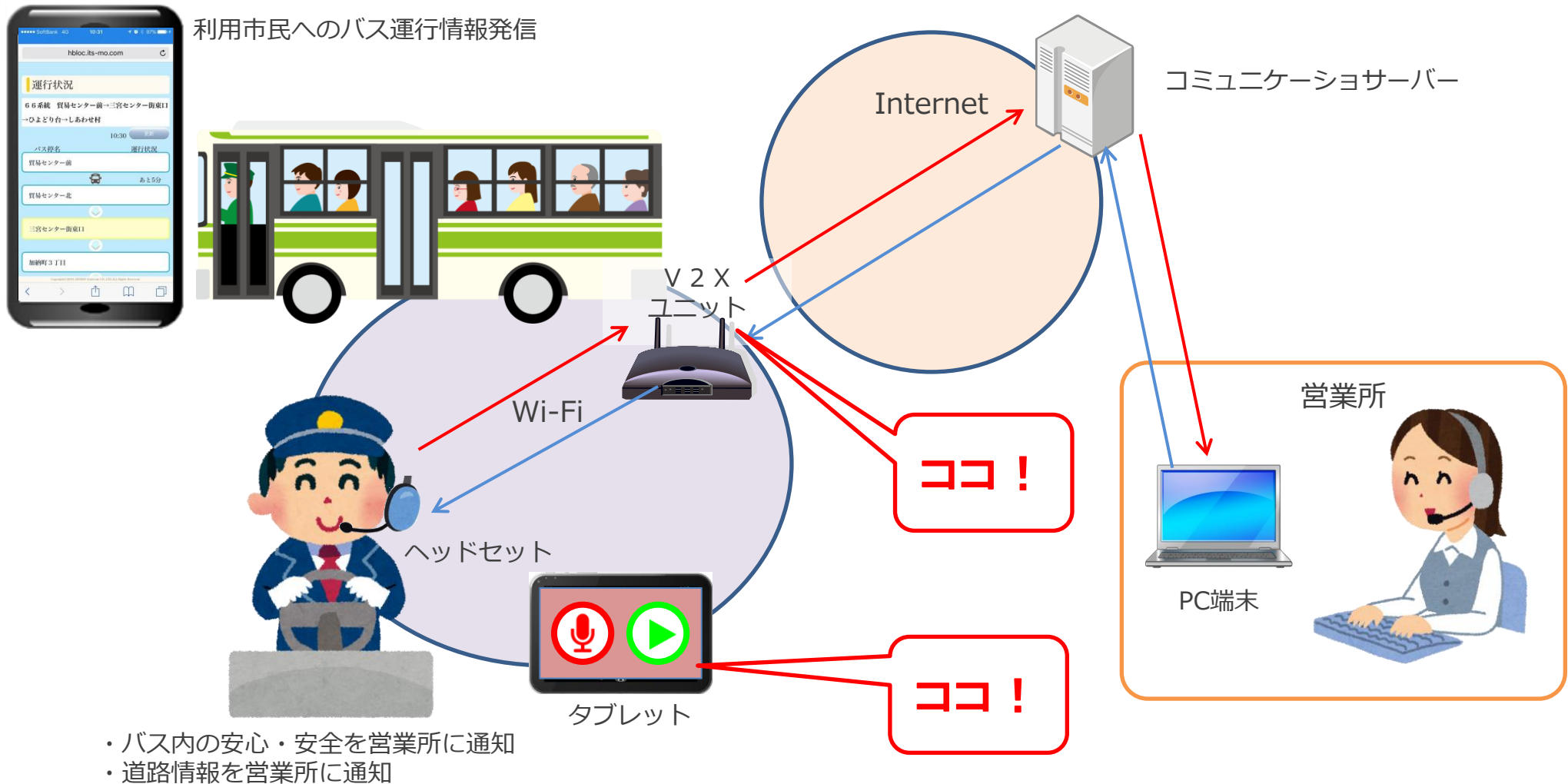
☆ **実証事業主体**

神戸市、一般社団法人Gateway APP Japan、本田技研工業株式会社、株式会社ゼンリンデータコム、ソフトバンク株式会社、**PCIソリューションズ株式会社**

☆ **今後の展開**

- ・ PCIソリューションズは、「**V2Xユニット**」を活用した**ソフトウェア開発**に携わる「**実証事業主体**」として参画
- ・ **第一段階**の「リアルタイムの市バス運行情報を**オープンデータ化（政令市初）**」を実証中、**第二段階**の「市バス車両に**デジタルサイネージ・車外カメラ**を設置した更なる情報発信」実証を予定

神戸市バスにおける「V2X」ユニットの運用・利用イメージ (安心・安全・豊かな社会)



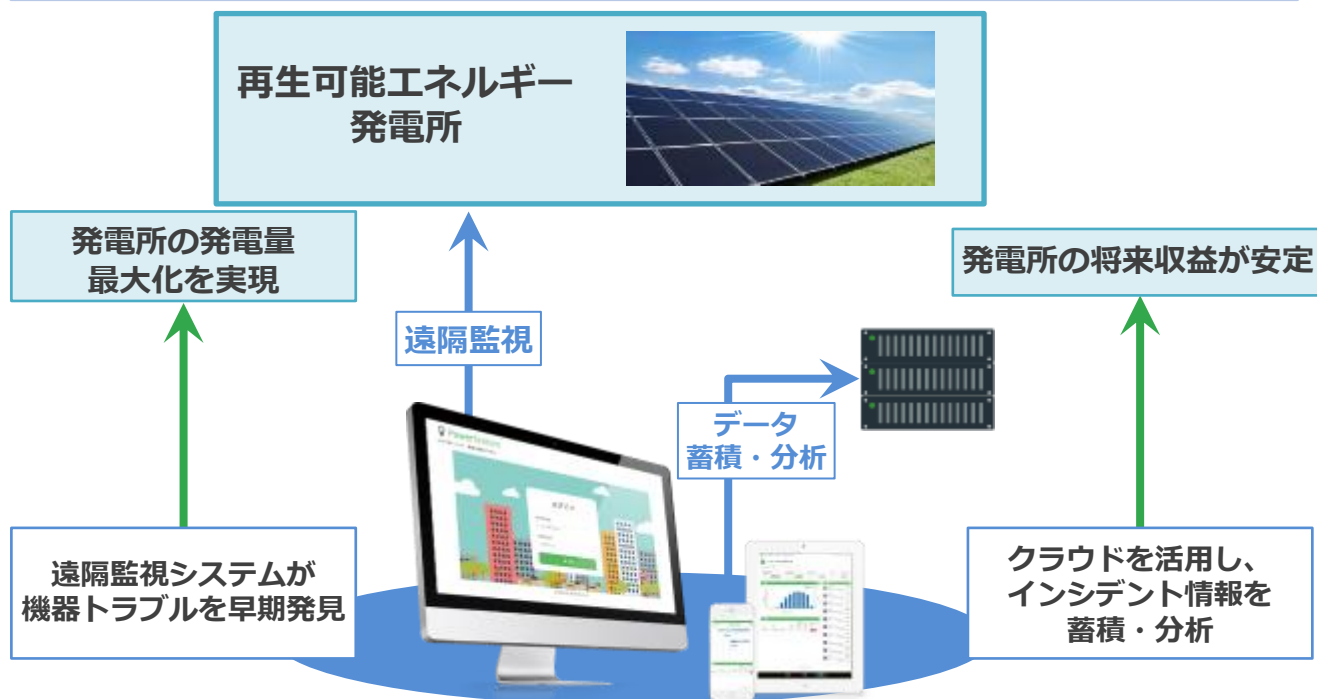
(7) 再生可能エネルギー「Power Station」

Power Stationは、再生可能エネルギー発電所の運用・維持管理業務（O & M業務）を支える統合管理システムです。当社のIoT技術を活用し入手したさまざまな情報を収集・分析することにより、機器トラブルを早期発見し、発電量の最大化を実現します。更には20年にわたる長期運用期間中のインシデント情報を蓄積・分析・対応することで、収益の安定化にも寄与します。

当社の強み・事業の特徴

- ・当社は発電所の開発段階から関与しており、発電所の特徴を反映した分析が可能
- ・大手コンサルファームと開発・発電事業者と当社（IT分野）の3社一体での関係を強化しており、開発プロジェクトのパイプラインが豊富
- ・再生可能エネルギー発電所は長期運転が前提であり、一度受注すると当社の長期安定収入となる

Power Stationを用いた再生可能エネルギー発電所運営の仕組み



主な機能

- スtring単位の発電状況管理
- 時間・日・月別の発電状況管理
- 顕在化した故障の検出
- ビッグデータ分析による潜在故障の推測
- インシデント管理

受注見通し

- 2015年9月 2拠点（実績）
- 2016年9月 第2四半期 1拠点（実績）
期末累計 6拠点（見通し）
- ~2018年各期 3~5拠点（見通し）

2015年12月9日

株式会社TCSI との協業ならびに秘密分散ソリューション取り扱い開始

PCIソリューションズ株式会社が、株式会社TCSI（東京都渋谷区）とセキュリティソリューション分野における協業を開始いたしました。TCSI社は、利便性や生産性を損なわないセキュリティソリューションを強みとしており、秘密分散ソリューション「PASERI（パセリ）」（以下、PASERI）を開発しております。

TCSI社と開発、販売面で協業することにより、当社ソリューションの選択肢の1つとしてPASERIの取り扱いを開始。当社がこれまで培ってきた技術を、セキュリティソリューション分野においても役立てることを目的としております。



3. 会社概要

企業理念

我々は、**お客様の満足**を通じて
全社員の幸せを追求し、
そして**社会の発展**に貢献します。

行動方針

- 安定した事業成長を実現します
- ユーザに適したソリューションを提供します
- 応援して頂ける企業を目指します
- 積極的（P）に変化（C）を求め、革新（I）します
- 全てのステークホルダーに満足して頂ける企業を目指します

(注) P : Positively C : Change I : Innovate

基本情報

商号	P C I ホールディングス株式会社 (PCI Holdings, Inc.)	資本金	6億5,072万円 (2015年9月現在)
所在地	〒 136-0076 東京都江東区南砂2-1-12	連結売上高	78億5,304万円 (2015年9月期)
代表者	代表取締役社長 天野豊美	連結経常利益	5億4,485万円 (2015年9月期)
設立	2005年4月	連結子会社	P C I ソリューションズ株式会社 P C I アイオス株式会社 Inspiration株式会社
従業員数 (連結)	873名 (2016年4月現在)		

P C Iホールディングス株式会社が グループ事業会社を経営管理することにより事業成長を加速させます

P C Iホールディングス(株)

主な機能：グループ経営管理

グループ戦略の立案と実行

合従連合(注)におけるグループ間のシナジー効果創出

コーポレートアクション計画・推進

グループ全体の内部統制責任・内部監査

コーポレート・ガバナンス

財務・経理の統合、資金調達集中管理

(注)：同一の目的達成のために二つ以上のものが一つに組織化することを意味する造語。



P C Iグループ

P C Iソリューションズ(株)

代表者：天野豊美
売上高：7,056百万円
資本金：360百万円
従業員：806名(2016年4月現在)

P C Iアイオス(株)

代表者：関谷恵美
売上高：610百万円
資本金：45百万円
従業員：42名(2016年4月現在)

Inspiration(株)

代表者：岩橋正治
売上高：207百万円
資本金：30百万円
従業員：12名(2016年4月現在)

(注) 2015年9月現在

業務執行に専念

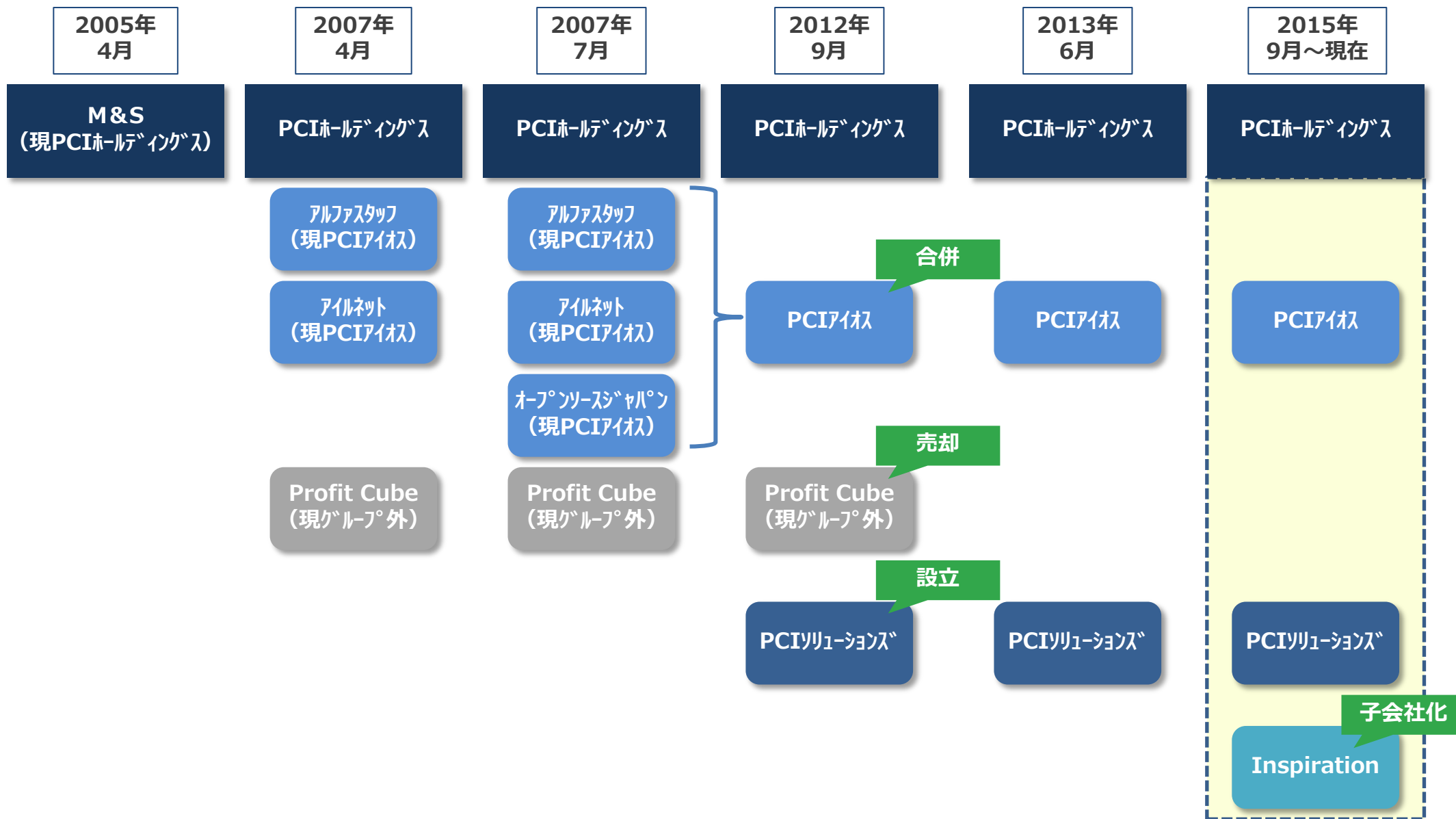
経営計画へのコミットメント

内部統制責任

コンプライアンス責任

個別業務への集中

(3) 会社概要 - グループ沿革



(4) グループ企業の事業紹介

PCIソリューションズ

エンベデッド
ソリューション

ビジネス
ソリューション

IoT/IoE
ソリューション

当社グループの連結売上高の約90%を占めるソフトウェア開発事業会社。

- ・ 参入障壁が高いといわれる自動車産業向け、通信端末、情報家電等の様々な電子機器を制御する組込み系（エンベデッド）ソフトウェア開発に強み。
- ・ 一般事業法人向けソフトウェア開発においては、幅広い分野でお客様の需要に応えている。
- ・ システム開発だけでなくIT人材の育成を目的に教育にも力を入れ、システムと人の両面から顧客に最適なソリューションを提供。
- ・ 加えて、組込み系（エンベデッド）ソフトウェア開発で培った技術を基に、自動車産業関連のIoT/IoEソリューションへも展開している。

PCIアイオス

ビジネス
ソリューション

IoT/IoE
ソリューション

オープンソースソフトウェアを活用した、短期間且つ高品質な開発を得意とするソフトウェア開発事業会社。

- ・ オープンソースソフトウェアによるITシステム構築需要に応える他、業種特化した自社開発ソフトウェアパッケージを有し、その販売ならびに当該業種の業務知識を活用したコンサルテーションも実施。
- ・ オープンソースソフトウェアとクラウドのノウハウを活かした再生可能エネルギー関連データ収集IoTデバイスや収集したデータ分析を行う。
- ・ クラウド運用サービスまで一括して受託するビジネスを担う。

Inspiration

IoT/IoE
ソリューション

少数精鋭による高スキルエンジニア集団のソフトウェア開発事業会社。

- ・ 自社で開発した開発フレームワークを活用した短期間開発が特色。
- ・ 自動車販売店向けソフトウェア開発を得意としており、特にIoT/IoEソリューションとしてのWebサービスの構築・販売に強みを持つ。
- ・ 自動車業界における豊富なサービス運用実績より生み出されたノウハウを基に、システム開発、Webデザイン、コンテンツ制作、ヘルプデスク業務をワンストップで提供している。

(5) 3つの事業分野

IoT/IoEソリューション事業



エンベデッドソリューション事業

ビジネスソリューション事業





さらなる新規事業分野を開拓

当社グループの提供サービス

IoT / IoEソリューション

- 自動車業界およびエネルギー業界向けIoTソリューションを開発。

- V2X：車間通信モジュール
- V-Low：放送受信共通ソフトウェアモジュール
- Power Station：再エネ発電設備遠隔モニタリングシステム

エンベデッドソリューション (P38参照)

- 自動車、重機・建機、車載器、情報家電、モバイル端末、ネットワーク機器などの組込みシステムにかかるソフトウェアを開発。

- 車載情報端末
- 各種制御装置
- 駆動系、ボディ系の各種ECU
- 衛星通信モジュール制御プロセス、他多数

ビジネスソリューション

- 金融、製造業、交通、放送等の幅広い業種へのITシステムを構築。
- ビジネスアプリケーションの開発およびその付随業務を展開。

- 金融、製造業向け一般情報系ソフトウェア開発
- 交通、放送等の社会インフラ系ソフトウェア開発
- 自社開発商品「Lesson」の販売

エンベデッドソリューションの開発実績を背景にIoT関連開発を行う。
参入障壁は極めて高い。

製造会社との深いリレーションによる受注。顧客企業との共同開発も実施。
参入障壁は高い。

主に大手SIerから当社が得意とする分野の開発を受注。
参入障壁は高くない。



PCIホールディングスの事業基盤

技術力

「ソフトウェア開発力」 × 「アプリケーション開発力」 × 「通信・組込み制御技術」

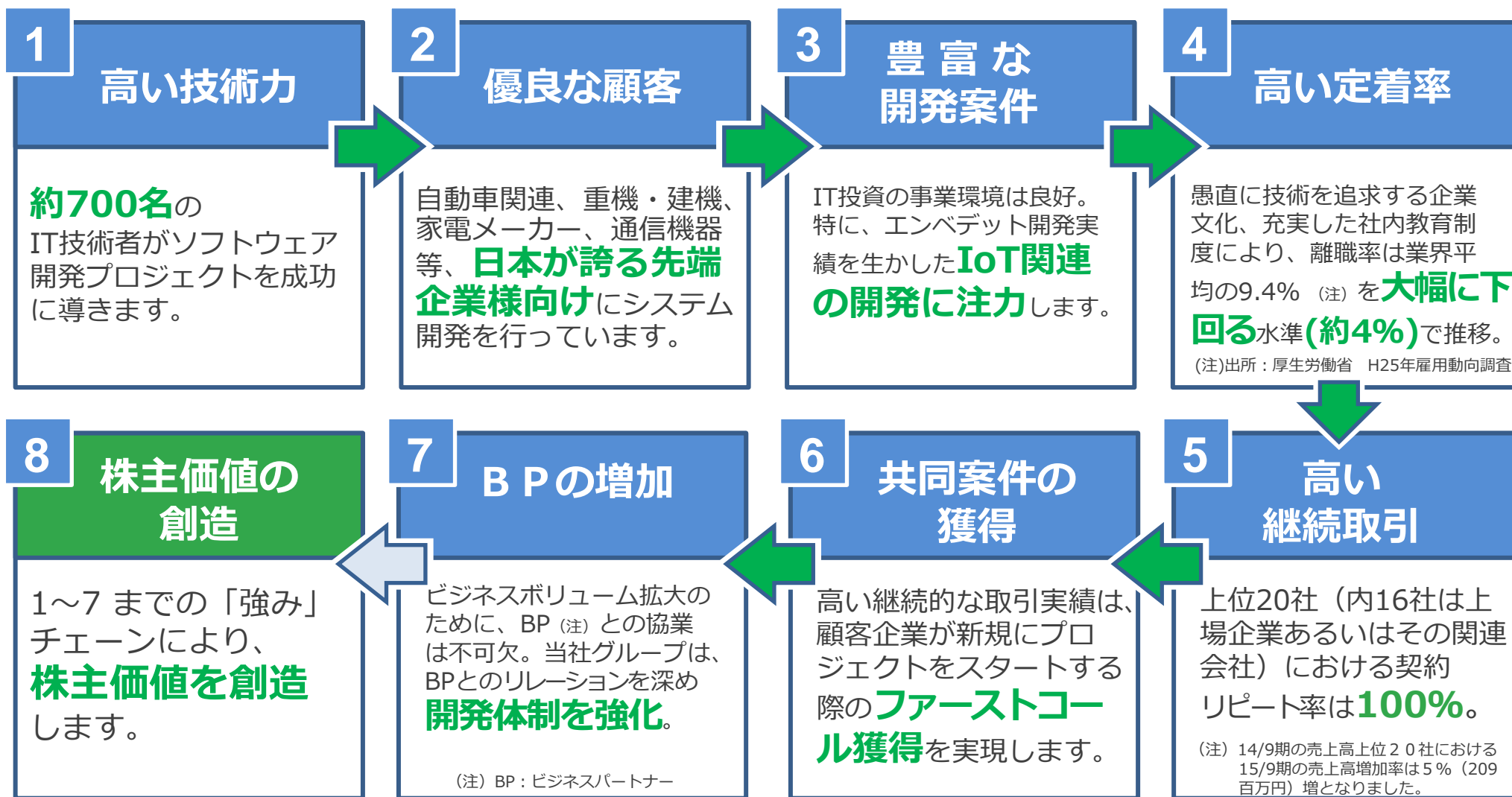
知的資本

「豊富な開発実績」 × 「優良な顧客」 × 「モラルの高い社員」 ×

「プロジェクト管理体制」

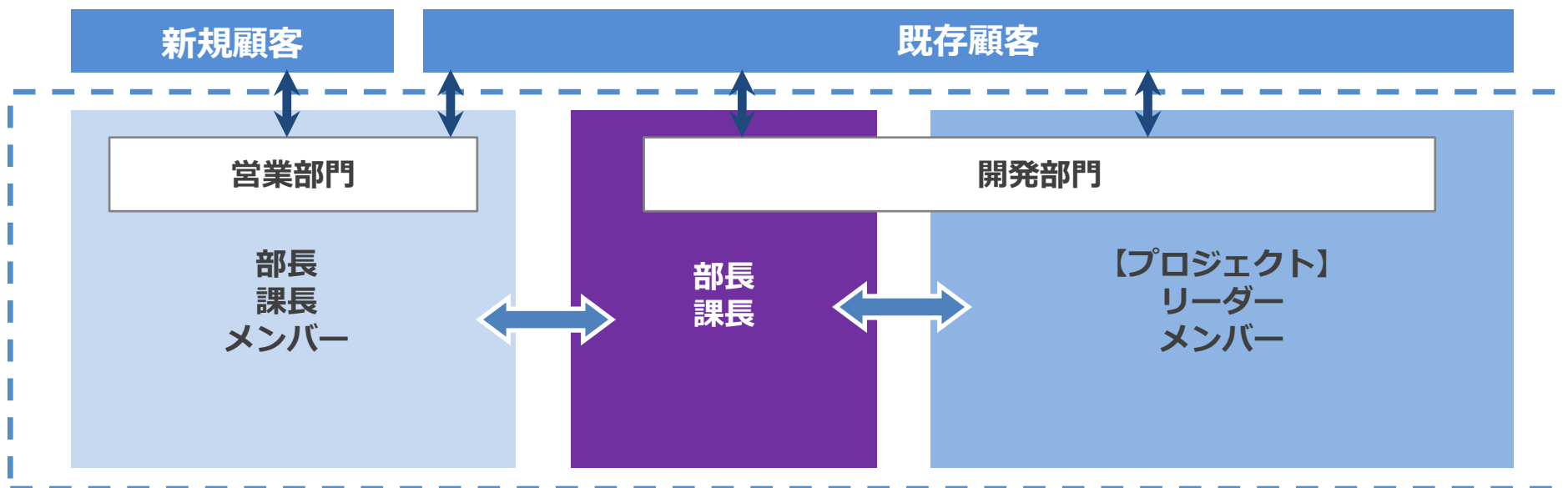


(7) 当社の株主価値創造プロセス



(注) 各データは、2015年9月期末時点のもの

(8) 株主価値創造プロセスを下支えするプロジェクト管理体制



- ・ 開発部門に工程管理専門の**経験豊富な管理職を配置**し不採算プロジェクトを極小化
- ・ 2016年上期の不採算プロジェクト案件は1件のみ（戦略的先行投資案件を除く）
- ・ 徹底した開発工程管理で顧客からの信頼を獲得、売上高上位20社の契約リピート率は100%を達成

4. 業績概要

(1) 連結損益計算書

(百万円)	2015年9月期				2016年9月期			
	1Q (参考)	上期	3Q累計	通期	1Q	上期	3Q累計	通期 (計画)
売上高	1,910	3,938	5,885	7,853	2,063	4,262	6,268	8,450
売上原価	1,494	3,068	4,540	6,090	1,584	3,228	4,736	6,541
売上総利益	415	869	1,344	1,762	479	1,033	1,531	1,909
販管費	275	554	897	1,215	318	661	1,045	1,329
営業利益	139	315	446	547	160	372	485	580
営業外収益	6	8	10	11	2	12	15	6
営業外費用	0	2	3	13	1	2	3	6
経常利益	145	321	454	544	161	382	496	580
税前利益	144	320	453	512	161	382	496	580
法人税等	64	135	184	181	56	119	160	220
親会社株主に帰属 する当期純利益	80	184	269	330	104	262	336	360

※2015年9月期第1四半期は参考数値。

(2) 連結貸借対照表

(百万円)	2015年9月期				2016年9月期		
	1 Q (参考)	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q
流動資産	2,418	2,451	2,357	3,087	2,962	2,864	3,204
固定資産	330	323	330	198	310	470	476
資産合計	2,748	2,774	2,688	3,285	3,273	3,335	3,680
流動負債	1,458	1,375	1,199	1,096	1,105	1,005	1,258
固定負債	61	65	70	74	77	82	99
負債合計	1,519	1,441	1,270	1,171	1,183	1,087	1,357
純資産合計	1,228	1,333	1,417	2,114	2,090	2,248	2,322
負債純資産合計	2,748	2,774	2,688	3,285	3,273	3,335	3,680

※ 2015年9月期第1四半期は、参考数値。

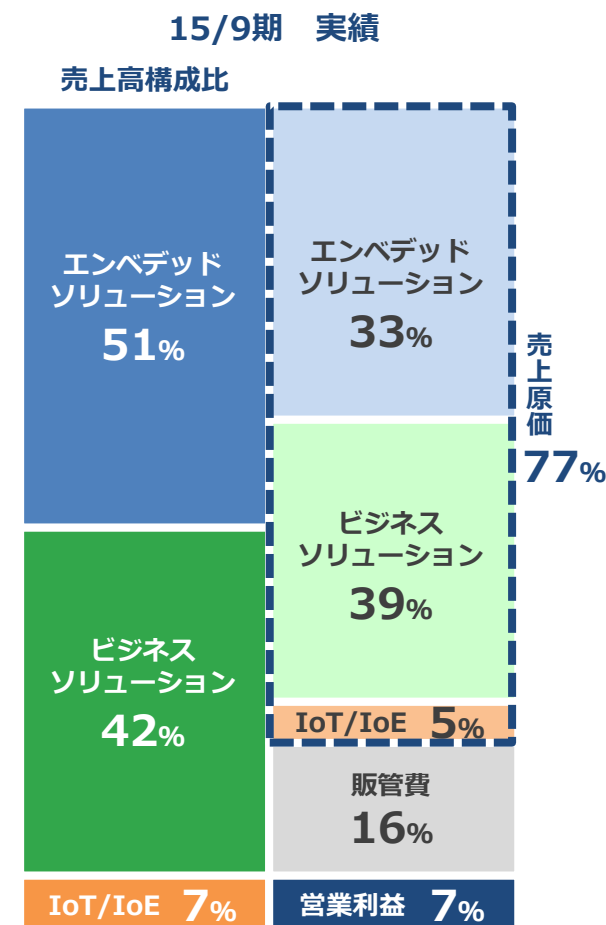
(3) 連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)	2015年9月期		2016年9月期	
	上期	通期	上期	通期 (予想)
営業活動によるCF	△ 297	250	△ 160	352
税金等調整前当期純利益	320	512	382	
減価償却費	17	32	16	
のれん償却額	2	5	1	
売上債権の増減額	△ 244	△ 68	△ 297	
たな卸資産の増減額	5	△ 1	2	
仕入債務の増減額	45	64	73	
その他	△ 445	△ 295	△ 340	
投資活動によるCF	△ 22	56	△ 195	△ 223
有形固定資産の取得	△ 8	△ 12	△ 0	
投資有価証券の取得	-	△ 10	△ 185	
その他	△ 13	79	△ 9	
財務活動によるCF	14	275	△ 128	△ 128
長短借入金の純増減額	0	△ 250	-	
株式発行による収入	-	636	5	
配当金の支払額	△ 95	△ 95	△ 133	
その他	109	△ 14	△ 0	

(4) 2015年9月期実績に基づく収益構造と中期見通し ①

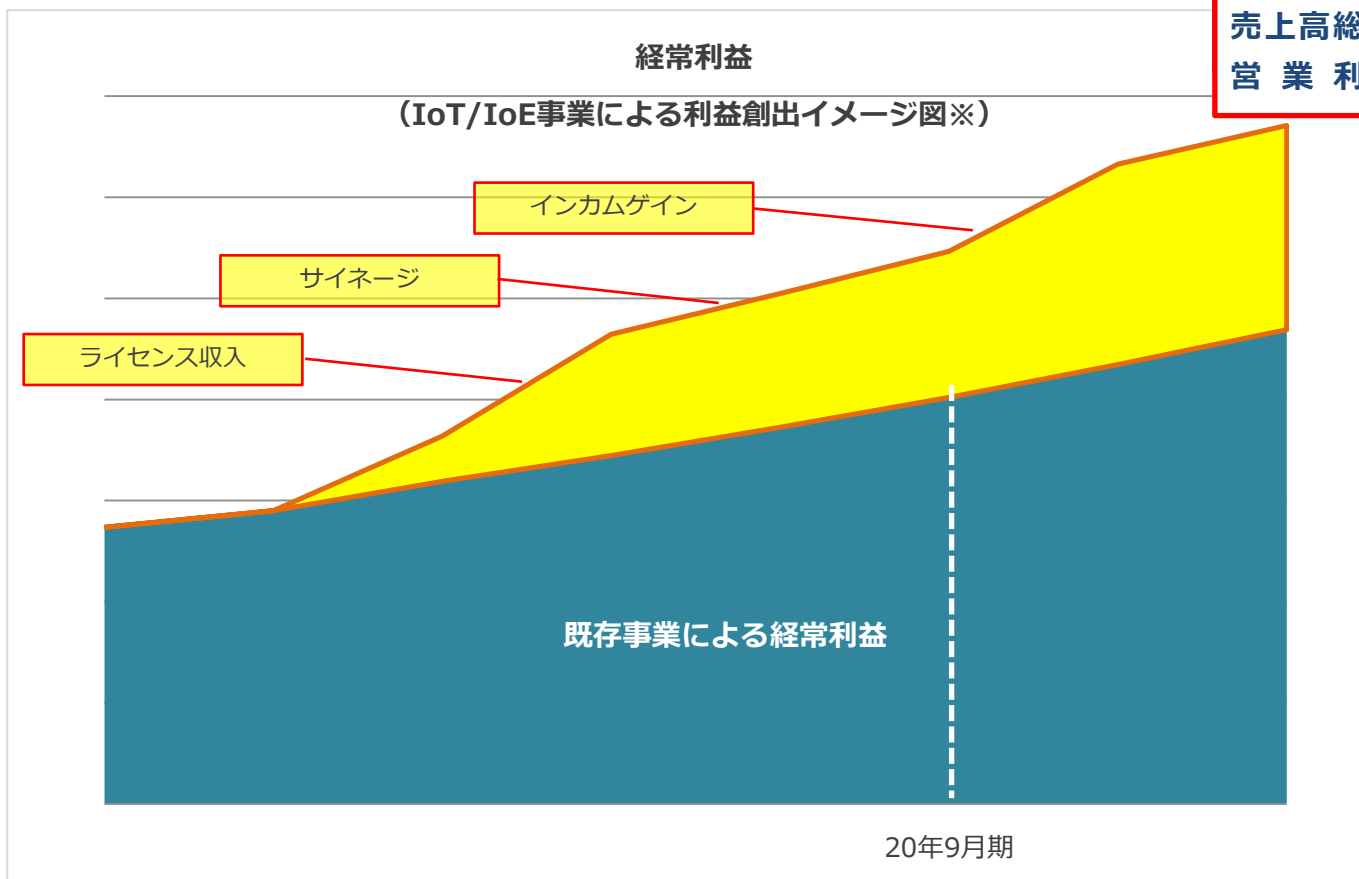
事業別	売上高構成比/売上総利益構成比	ポイント
エンベデッドソリューション事業	<p>売上高構成比 51% 売上総利益構成比 51%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■中期売上高成長・収益性見通し <ul style="list-style-type: none"> ・自動車産業向けを中心に需要は堅調 ・売上高成長率：年平均3～5%程度 ・売上高総利益率：22～24%を維持 ■当社の強み <ul style="list-style-type: none"> ・顧客との関係深く参入障壁を構築 ・豊富な通信/組込制御系エンジニアと組織力 ■課題、特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・課題：高スキル プロパーエンジニアの継続的育成 ・特徴：景気変動による影響が小さい ■成長戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・既存取引先との関係強化（深耕、横展開）
ソリューションビジネス	<p>売上高構成比 42% 売上総利益構成比 40%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■中期売上高成長・収益性見通し <ul style="list-style-type: none"> ・企業のIT投資の堅調さ継続 ・売上高成長率：年平均3～7%程度 ・売上高総利益率：20～22%を維持 ■当社の強み <ul style="list-style-type: none"> ・特定業種に依存せず、幅広い業種での開発実績 ・豊富なオープンソースソフトウェア関連技術者 ■課題、特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・課題：エンジニアの確保と大規模一括受託案件に係るプロジェクト管理 ・特徴：景気変動による影響が大きい ■成長戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・BPとのリレーション強化による機会損失の削減 ・自社ソフトウェアプロダクトを持つ企業のM&Aも視野。
IoT/IoEソリューション事業	<p>売上高構成比 7% 売上総利益構成比 9%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■中期売上高成長・収益性見通し <ul style="list-style-type: none"> ・従来の業種を超えたIoT/IoE市場の拡大 ・売上高成長率：年平均2桁成長（売上高構成比13～15%を視野） ・売上高総利益率：20%台後半～30% ■当社の強み <ul style="list-style-type: none"> ・豊富なエンベデッドシステム開発実績によるスムーズな参入 ・開発実績による信頼性を背景とした他社との共同プロジェクト ■課題、特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・課題：IoT技術を活用したサービス展開 ・特徴：急成長であり競争が厳しくなる ■成長戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・自動車業界向け V2X、V-Lowマルチメディア放送関連の推進 ・V2X技術、V-Lowマルチメディア放送関連の利用方法の拡大 ・エネルギー業界向け PowerStationを活用したO&Mの推進

中期ターゲット	
売上高成長率	5 ～ 20%
売上高総利益率	20 ～ 30%
営業利益率	6 ～ 10%



(5) 2015年9月期実績に基づく収益構造と中期見通し ②

中期ターゲット	
売上高成長率	5 ~ 20%
売上高総利益率	20 ~ 30%
営業利益率	6 ~ 10%



※IoT/IoE事業による利益創出イメージ図は、現在織り込んでいないV2Xユニット、V-Lowマルチメディア放送等の新しい取り組みに係る収益を反映させた予想値をグラフ表示しているものです。当該事業の今後の拡大規模や展開スピードにより大きく変動することが予想されるため、当社計画値を表すものではありません。

5. 用語集

(1) エンベデッドシステムとは

- ・エンベデッドシステム（組み込みシステム）は、スマートフォンや自動車、家庭用電子機器・医療機器・産業用機器等、「制御」を必要とするあらゆる製品に内蔵されているコンピュータシステムです。
- ・身の回りの多様化する様々な製品に、当社グループの最先端技術が数多く活用されています。
- ・このエンベデッドシステム開発は当社が最も得意としている分野であり、当開発で培った通信制御技術・組み込み制御技術を応用したものが、IoT/IoEソリューション事業にも活かされています。

お客様（主に製造業者）

〇〇な機能を開発して欲しいなあ



要件定義・基本設計

発注

高い参入障壁

製造業者はリコールリスクを回避するため実績・信頼ある企業にのみ発注



開発事例

カーナビ



- ・タッチパネルで画面を切り替える機能

自動車



- ・アクセルを踏むとガソリン噴射量を制御する機能
- ・エンジン、エアコン等の制御機能
- ・センサーによる自動駐車機能

スマートフォン タブレット



- ・ディスプレイ表示の仕組み
- ・アプリケーションの基盤
- ・データ通信機能
- ・電波を切替える機能 等々

デジタルカメラ



- ・画面上的アイコン・ボタンメニュー等を操作する機能
- ・シャッターを押してフォーカスを合わせる機能
- ・画像処理機能 等々

製品にチップセット組み込み

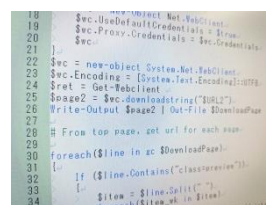
納品

システム開発

詳細設計

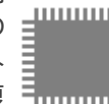
プログラミング

テスト



開発したプログラムをチップセットに格納

チップセットとは、ある機能を実現するための集積回路の組み合わせのこと。ソフトウェアの開発力でハードの複雑な機能を実現する。



多岐にわたる機能を必要とする機器のシステムは、最先端技術を駆使し、複数のハードウェア・ソフトウェアを組み合わせ開発しています。

※上記は一例になります。上記以外にも当社グループは幅広い技術でお客様のニーズにお応えしております。

IoT (Internet of Things)

コンピューター等の情報・通信機器だけでなく、センサーや家電など様々な「モノ」をインターネットに接続させ、通信させることで、遠隔計測、自動認識や制御等を行うこと。

IoE (Internet of Everything)

IoTよりも広い概念。ヒト・モノ・プロセス・データ等がインターネットにつながり、相互に通信が可能となる技術や状態、仕組みのこと。

フィンテック (FinTech, Financial Technology)

ファイナンスとテクノロジーをあわせた造語。ITを活用して金融、決済、財務サービスなどを生み出したり、見直したりする動きのこと。

AUTOSAR : (AUTomotive Open System ARchitecture)

車載ソフトウェアプラットフォームの仕様の名称及び自動車業界のグローバル開発パートナーシップ

BP

ビジネスパートナー企業やその技術者。

V-Lowマルチメディア放送

V-Low帯（地上アナログテレビ終了後に空いたVHF帯の周波数跡地のうち、90MHz～108MHzの帯域を指す）の放送電波と通信回線を使用し、主に移動体端末向けに音声・映像・データ等のコンテンツの配信を行う新しい放送の形態。

V2X (Vehicle to X)

自動車 (Vehicle) と他の様々な機器やモノ (X) とを通信でつなげること。

プル型・プッシュ型情報配信

プル型情報配信とは、デバイスがインターネットに繋がったサーバーに対し情報取得をリクエストしてデータを取得すること。
プッシュ型情報配信とは、サーバー側が一方的に情報を配信しデバイスに表示する仕組みのこと。

O&M (Operation & Maintenance)

運用・保守。

デジタルサイネージ (Digital Signage)

デジタルサイネージとは、商業施設や駅、店頭、公共空間等で、ネットワークに接続したディスプレイで映像や情報を表示するシステムのこと。

オープンソースソフトウェア (Open-Source Software)

ソフトウェアの設計図にあたるソースコードをインターネット等により無償で公開し、誰でもそのソフトウェアの改良、再配布が行えるソフトウェアのこと。

本資料のいかなる情報も、弊社株式購入や売却などを勧誘するものではありません。本資料に記載されている業績予想及び将来の予測等に関する記述は、資料作成時点での入手された情報に基づき弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いかねますのでご承知おき下さい。

お問い合わせ先

PCI ホールディングス株式会社 グループ戦略室

Phone 03-5633-7940

E-mail ir@pci-h.co.jp

